

JFグループの一員として

水産業への支援

海と暮らしを守るために



周囲を海に囲まれた日本。

海がもたらす恵みを誰もが享受してきました。

地球の温暖化や汚染による海の生態系への懸念。

農林中央金庫は、JFグループの一員として

漁業で生計を立てる人々との連携を進めています。



環境・生態系保全活動への支援など

環境保全活動

全

国の漁業者は、漁業生産を維持するために環境や生態系を守り育てることが大切であると考え、藻場づくりや干潟の管理等に努めています。

JFグループにおいても、「資源保護や管理」「食害生物の駆除」「種糸やプレートなどによる藻場造成」「干潟における二枚貝や稚貝の移植・放流」「サンゴ礁域における赤土などの流入防止対策」などさまざまな保全・再生活動を行っています。

さらには、JF(漁協)の女性部や青壮年部を中心に、漂着した「ゴミ等の回収・清掃を行う」「海浜清掃」や、森を守ることを通じて豊かな海づくりを目指す「植樹活動」などにも取り組んでいます。また、天然油脂を使った肌にやさしく自然環境に負荷も少ない石鹸のオリジナルブランド「わかしお」を開発し、使用運動に取り組んでいます。

資源管理型漁業の推進

獲

る「から」育てて獲る「へ」。JFグループでは、資源管理活動として、各浜の青壮年部が中心となり、漁獲量を定める、産卵場を禁漁区にする、漁具や漁法を制限して小さい魚は獲らないなど、さまざまな取組みを行っています。また、稚魚や稚貝を育てて放流するなど、資源回復に向けた積極的な取組みとして、「資源管理型漁業」を全国各地で実践しています。



JFオリジナルブランド石鹸「わかしお」



JFシェルナース



資源管理型漁業



海浜清掃活動



干潟の耕耘



海藻おしぼ菜



マイ箸セット

また、JFシェルナース(貝殻魚礁)を設置して、稚魚のえさ場、隠れ場、保護育成場や産卵場などを作り、資源の回復と貝類養殖の副産物である貝殻のリサイクルに取り組みんでいます。そのほか、藻場の造成・干潟の耕耘こうらんなど、将来に資源を残すためのさまざまな取組みを行っています。

当金庫は、こうしたJFグループの自主的な活動に協力するため、浜の清掃作業に活用する「廃棄物処理袋」を提供しています。平成20年度は、海浜清掃に参加した全国318のグループ(取組み人数2万7707人)に対し合計9万枚を配布しました。

また、子どもたちや地域住民に対する啓発普及活動として、地球環境について学ぶ糸口としての「海藻おしぼ菜」や、魚食を中心とした日本型食生活の推進や食育活動に寄与する「マイ箸セット」などを提供して喜ばれています。平成20年度は、主に青壮年部や女性部を中心に地域の祭りや交流会、料理教室など400以上のイベントが開催され、合計18万枚の「菜」を配布しました。

水産業への支援

水産業振興に関する当金庫の貢献活動

水産業に対する教育啓発活動

全

国漁業協同組合学校(千葉県柏市)は、「協同組合精神を持ったJF職員の養成」を目的としたJFグループで唯一の教育専門機関であり、昭和16年に創設されて以来、JFおよび漁村の指導者を多数養成し、送り出してきました。高校や大学等を卒業しJFグループ団体への就職を目指す新卒者やJF・JF漁連等の在職者が漁業やJFに関する基礎と実務を学んでいます。

当金庫も、組合学校後援会の賛助会員として、また、一部セミナーの講義等により、将来のJFを担う若きリーダー育成に協力しています。

「豊かな海づくり」運動への協力

当

金庫は、昭和56年から毎年開催されている水産業最大のイベント「全国豊かな海づくり大会」に協力しています。平成21年10月31日には、第29回大会(主催：豊かな海づくり大会推進委員会、後援：農林水産省、環境省)が、これまでの地方大会を総括する中央大会として、国立大学法人 東京海洋大学(品川キャンパス)において開催されました。

こうしたイベントを通じて、水産資源の維持培養・海の環境保全に対する意識の高揚を図り、水産業への認識を深める活動に支援を行っています。

「全国海の子絵画展」への協力

当

金庫は、昭和53年から毎年開催されている「全国海の子絵画展」(主催：JF全漁連)を、文部科学省・農林水産省ほかとともに後援しています。

この絵画展は、小・中学生のみなさんが絵を描くことを通じて、海に対する興味・漁業に対する理解や夢を持って育っていただきたいの願いを込めて実施されており、平成20年度には全国から約2万7000点(参加校約1100校)もの応募がありました。

海の子絵画表彰者

平

成21年3月27日、第31回全国海の子絵画展の表彰式が東京都内で行われ、文部科学大臣奨励賞、農林水産大臣賞をはじめ水産庁長官賞、NHK会長賞、教育美術振興会理事長賞、農林中央金庫理事長賞、全国漁業協同組合連合会会長賞の各受賞者が表彰されました。ここでは、農林中央金庫理事長賞を受賞された方々の作品を紹介します。

全国漁業協同組合連合会 代表理事会長

(農林中央金庫 経営管理委員) 服部 郁弘様



漁業再生のためにはしっかりしたJF組織が必要であり、そのためには人材の確保と育成がこれまで以上に重要です。私が校長を務める全国漁業協同組合学校では、JFで仕事をするために必要な内容が、経験豊富な講師陣とカリキュラムで組み立てられています。農林中央金庫には、こうした組合学校の取組みを賛助会員として支えていただき、感謝しております。組合学校の役割はこれからも重要だと考えており、卒業生を含む組合学校のネットワークをより太くして、浜の活力を支えてまいりたいと考えています。

中学校の部



「僕らの海2」
嵩さん(兵庫県)



「漁の夜」
鋸崎さん(長崎県)

小学校の部



「船」
西村さん(宮崎県)



「じびきあみは楽しいな」
逢坂さん(青森県)



「大漁」
花田さん(北海道)



「やどかり」
坂元さん(兵庫県)





親子お魚料理教室のご紹介

平

成21年8月25日、東京・築地社会教育会館において、小学4～6年生とその保護者12組24名の参加を得て「親子お魚料理教室」が開催されました。JF全漁連（中央シーフードセンター）では、従来、主婦を中心とした一般消費者を対象に料理教室を開催していましたが、次代を担う子どもたちやその保護者の方々に魚の良さを再発見していただくため、また食育の場として活用いただくため、平成16年度から毎年夏休みに「親子料理教室」として開催しているものです。当日は、「おさかなマイスター」による魚にまつわる楽しい話、魚の栄養効能や食事バランスガイド等にかかるミニ講義に加え、料理研究家の指導に基づいて参加者が実際に料理し試食を行い、お魚料理の良さを再発見されたようでした。

全国青年・女性漁業者交流大会から

水

産庁補助事業により、全国の青年・女性漁業者が日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに、広く相互の知識や研究を交換し深めることにより、水産業・漁村の発展・活性化のための技術・知識などを研鑽することを目的

として、年に1度、全国青年・女性漁業者交流大会が開催されており、当金庫も後援しています。平成21年3月に開催された第14回大会において「農林中央金庫理事長賞」を受賞された5グループのうち、環境保全部門で受賞されたグループについて紹介します。



環境保全部門 受賞

おこっぺ 青森県 奥戸漁業協同組合 女性部

海岸美化運動と碧い海を守る運動として、JF(漁協)周辺の花壇づくりと海岸清掃を行ってきています。年に1回の漁港内一斉清掃は、女性部員と組合だけで始めた取組みでしたが、現在ではJFを利用する多くの人々や地元の小・中学生も参加し、集落一丸となっていくほどに発展しました。また、男性が出稼ぎ等で不在となる家庭の多い冬季に地域の安全を守るため婦人消防クラブを結成して活動を行ったり、チャリティーショー等の収益金を町内の学校や施設に寄付するなどしています。

全国漁協女性部連絡協議会

うとすずえ 会長理事 宇都 鈴江様

わたくしども全国女性連だけでなく、県段階の女性部連合会、JF段階の女性部の多くが農林中央金庫をはじめとするJFマリンバンクにお力添えをいただき、漁業・漁村の活性化のためにともに活動をしております。海藻おしぼの葉やマイ箸セット、廃棄物処理袋についても、わたくしどもの環境保全や食育に対する啓発活動をご理解のうえ、作成していただき、全国約800を超える女性部で活用させていただいております。今後とも、相互協力のもと環境や社会に貢献できる活動を広げてまいりたいと思います。



全国漁青連

さかもと しげのり 会長理事 坂元 茂教様

全国漁青連は、31県域に32の県漁青連とそこに集う全国約15,000人の青年漁業者で組織されています。私たちを取り巻く環境は、漁船用燃料や漁具などの資材の高騰や水産資源の減少など漁業を継続していくうえで厳しいことが多くなっています。そのなかにあっても私たちは、豊かで碧い海を次世代に引き継ぐため、資源管理型漁業の推進、出前教室など次世代に向けた啓発活動などを行っています。農林中央金庫には、漁家経営だけでなく、こうした私たちの活動についてもサポートしていただき、今後とも良きパートナーとして、ともに日本の漁業や海、そして地域社会を支えていきたいと思っています。

